

Pure::variants Release 6.0 の注目点

Date : 2022-12-06

pure::variants 6: 新しいメジャーリリース、新しいWebクライアント



メジャーリリースとなる **pure::variants 6.0** には、新しいクライアントの立ち上げ、2つの新しいコネクタ、重要な機能追加、そして改善があります。注目すべき点は以下です：

- **新しい pure::variants Webクライアント** - pure::variants の既存の Web機能に、フィーチャモデリング、バリエーションマトリクス、無償で利用できる読出し専用ユーザーが加わります
- **新規：codebeamer用 pure::variantsコネクタ** - PTC の強力な Web ベース ALM ソリューション用の Webベースのバリエーション管理
- **新規：Polarion用 pure::variantsコネクタ** - Polarion のバリエーションと pure::variants Enterprise の全機能との間のギャップを縮めます
- **さらなる改善とバグ修正** - pure::variants の JavaScript を ES6 言語規格に更新、CI環境での GC を意識したプロジェクトのサポートの強化、など



pure::variants Webクライアント

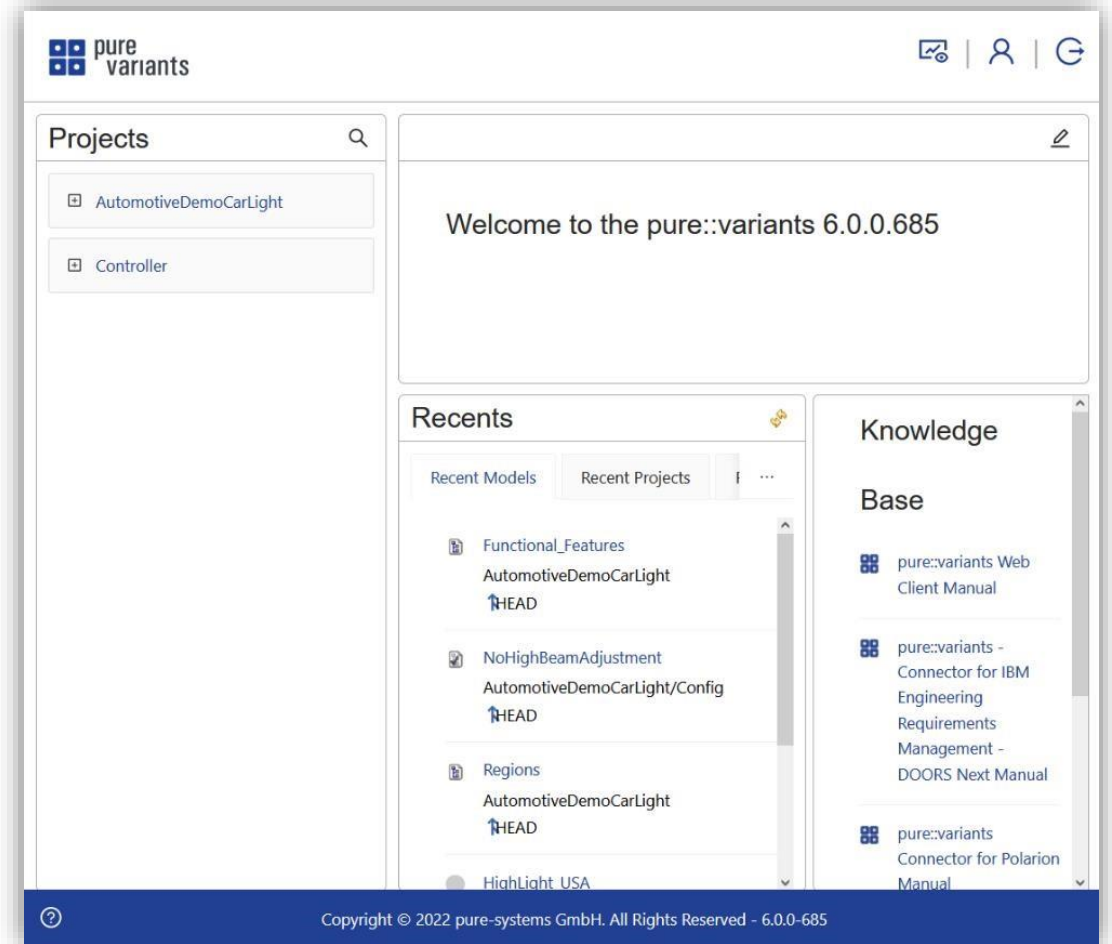
概観

pure::variants Webクライアント – 「Webification」



非常に魅力的な機能の概要：

- フィーチャーモデルエディタ、バリエーションマトリクス、並列実行のサーバサイド変換、など
- インストール不要のユーザーフレンドリーなUIと集中管理のデプロイメント
- 選択したWebツールのための緊密な統合とサーバサイドの変換：IBM DOORS Next、Siemens Polarion、PTC codebeamer
- 読出し専用アクセスのユーザー数は無制限
- アクセス可能なプロジェクトの概要を提供するホームページ
- pure::variants ヘルプマニュアルへのオンラインアクセス、および文脈依存のヘルプ



pure::variants Webクライアントのホームページ



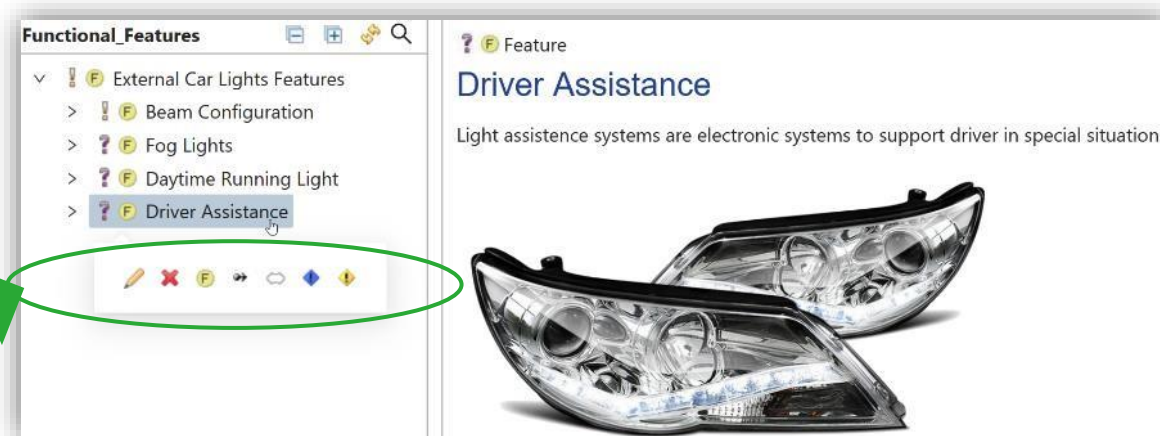
pure::variants Webクライアント 新機能の詳細

フィーチャモデリング機能

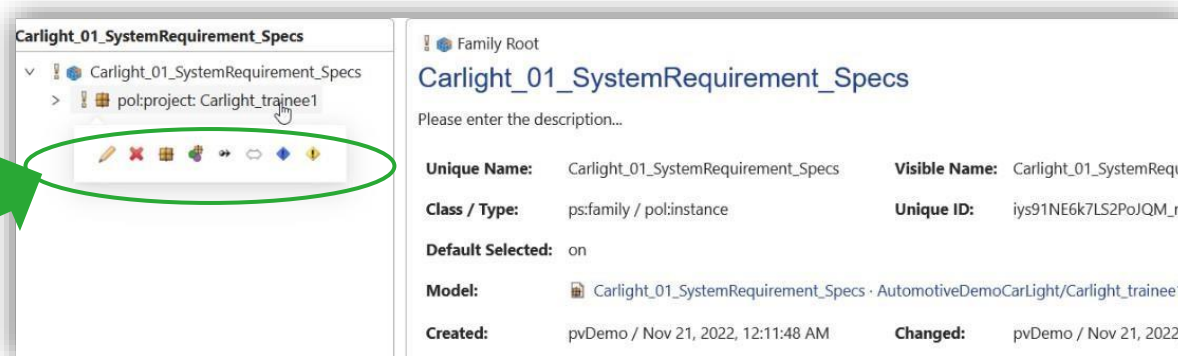


Webブラウザでフィーチャモデルの作成と編集が可能です

- pure::variants デスクトップクライアントを要しない完全なフィーチャモデリング
- フィーチャや、属性、関係、制約、制限の作成と編集
- 既存のファミリーモデルの編集も可能



フィーチャモデルエディタ



既存のファミリーモデルの編集

バリエーションマトリクス



要望が多かったバリエーションマトリクス機能もWebから操作できます

- 複数のバリエーションモデルを同時にオープンして、ポートフォリオの分析や、最適化、調整が容易に行えます
- **クイックフィルター** を使用して、タスクに関連するフィーチャやコンフィグレーションの問題にズームインできます

Model Elements	Level	HighBeamAdjustment	NoHighBeamAdjustm...	BaseLight
[-] Functional_Features				
[-] ! F External Car Lights Featur...		✓	✓	✓
[-] ! F Beam Configuration	1	✓	✓	✓
[+] ! F Low Beam	1.1	✓	✓	✓
[+] ! F High Beam	1.2	✓	✓	✓
[+] ! F Regions	2	✓	✓	✓
[+] ? F Fog Lights	3	□	□	✓
[-] ? F Daytime Running Light	4	□	□	□
[+] ? F Driver Assistance	5	□	□	✓

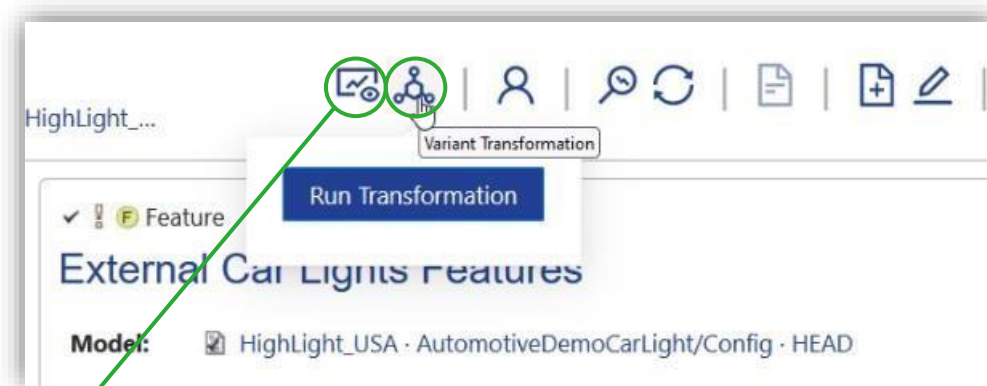
サーバーサイドでの変換



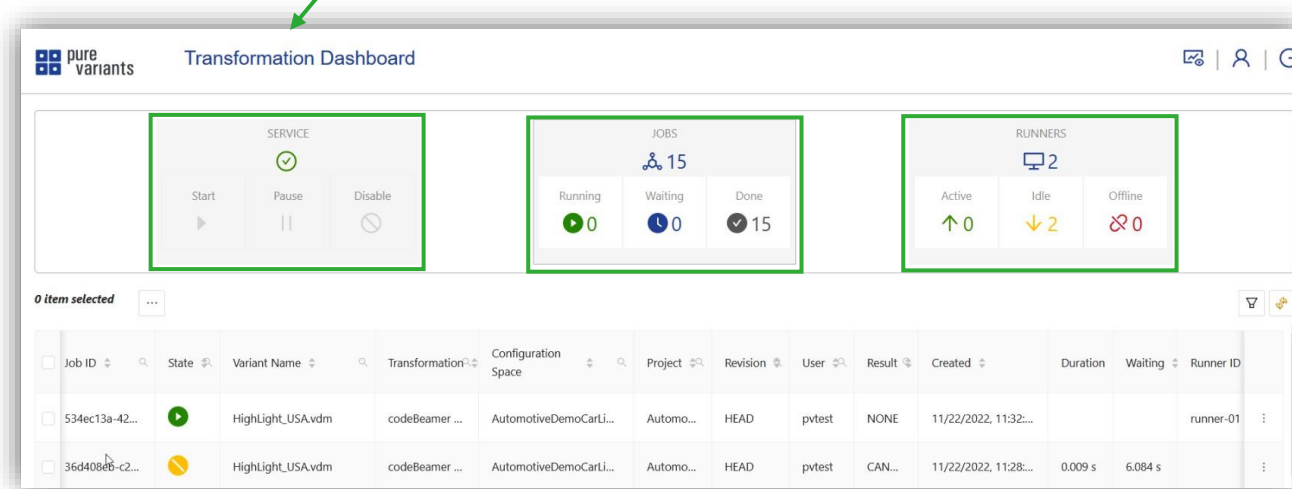
サービスとしての変換 (Transformation as a Service)

– pure::variants のサーバーサイドでの変換で実現されます

- 強力なサーバーマシンで複数の変換を並行して実行することにより、時間を節約できます
- Webベースとデスクトップベースとの作業の切り替えを減らすことで、集中力が維持できます
- 現在サポートしているコネクタ：
DOORS Next、Polarion、codebeamer



Webクライアントでの変換の起動



変換ダッシュボードで現在や過去の変換の状況をチェックする

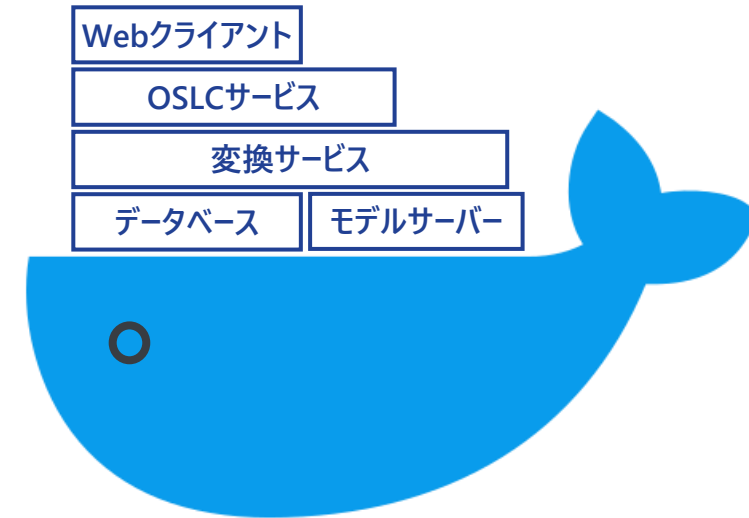


読出し専用ユーザーとさらに容易なディプロイメント

pure::variants Enterprise の読出し専用ユーザーで、全社的なWebベースのコラボレーションを実現します

- 追加のライセンス費用なしで、バリエーション管理タスクに追加のステークホルダーが参加できます
- 入門障壁の低減：読出し専用ユーザーは、Webクライアントで pure::variants リソースを表示できます - デスクトップクライアントのインストールや設定は不要です
- 適切な権限の管理：読出し専用ユーザーには、pure::variants プロジェクトの内容を閲覧できるようにアクセス権を与えなければなりません
- 読出し専用ユーザーは無制限に作成できます

コンテナ化したデリバリーと更新



- オンプレミスまたはクラウドでのデプロイ
- 脆弱性に関する迅速なセキュリティアップデート
- Dockerベースのデプロイメントパッケージが更新サイトで提供されます



Webベースツール用の 新しいコネクタ

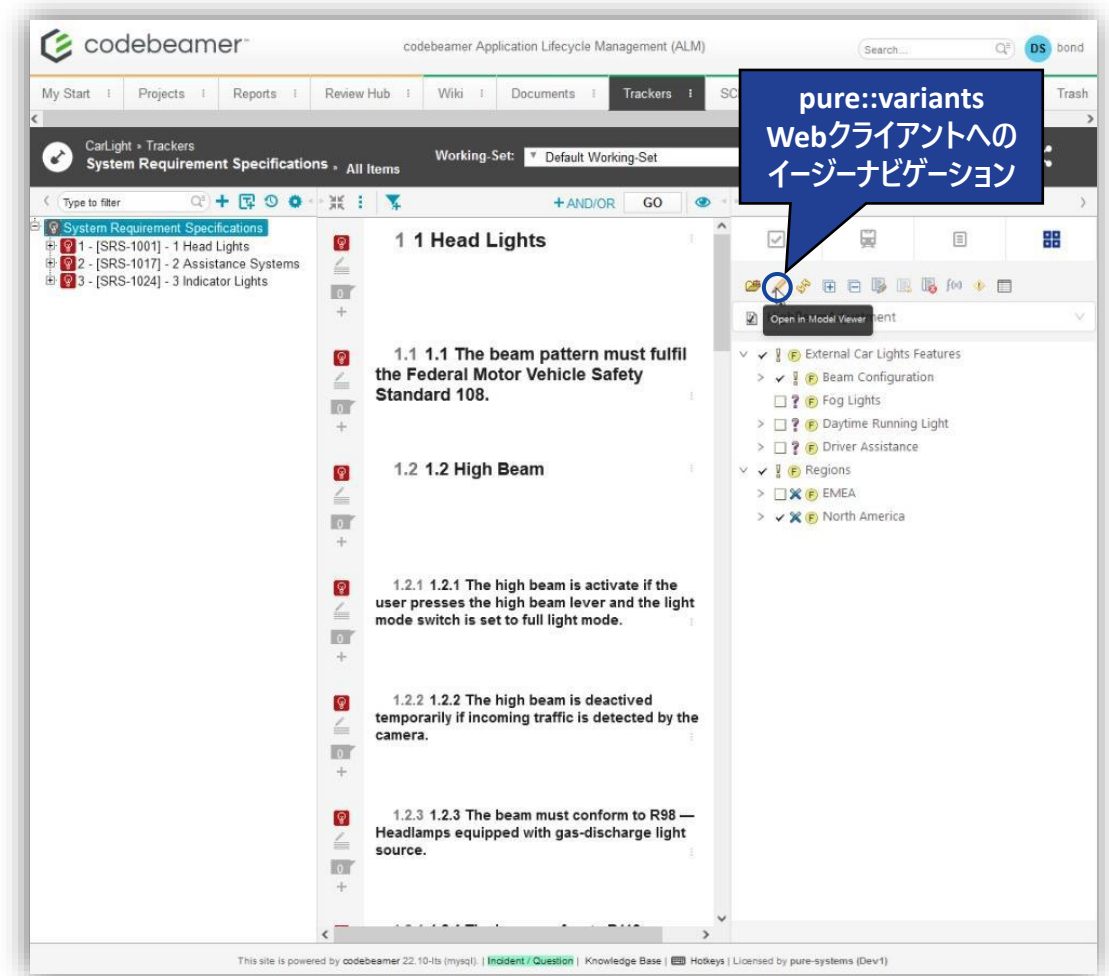


新規：codebeamer用pure::variantsコネクタ



codebeamer用pure::variantsコネクタは、PTCのALMソリューションに強力なバリエーション管理機能を提供します。主要な機能は以下です：

- 構造的変異性：要件個々やチャプター全体に変異点を追加します
- パラメトリック変異性：要件テキストを修正して、バリエーションのパラメータに適合させます
- エラーチェック：誤った変異点の定義を発見し修正します
- プレビュー：バリエーション固有のドキュメントを生成前にレビューします
- 変換：ワーキングセットとして、または列挙モードを使用して、バリエーション固有のドキュメントを永続化します
- pure::variants Webクライアントとの統合：ドメイン/アプリケーションエンジニアリングをシームレスに切り替えます



codebeamer用pure::variantsコネクタ

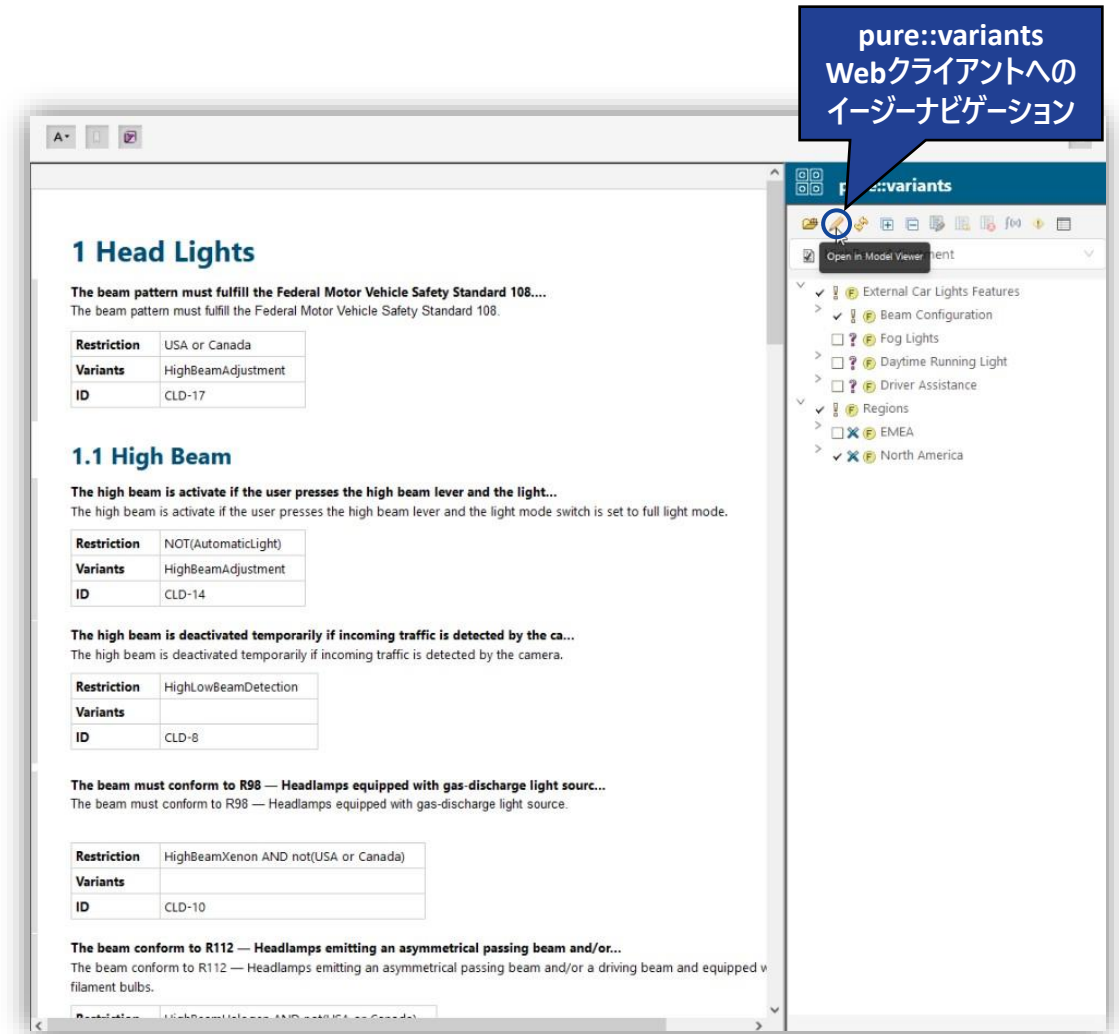
詳細は[コネクタのWebページ](#)を参照ください

新規：Polarion用pure::variantsコネクタ

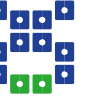
Polarionのバリエーションとpure::variants Enterpriseの全バリエーション管理機能とのギャップを縮めます。主要な機能は以下です：

- 構造的変動性：ワークアイテム個々やチャプター全体に可変ポイントを追加します
- パラメトリック可変性：ワークアイテムテキストを修正して、バリエーションのパラメータに適合させます
- エラーチェック：誤った可変ポイントの定義を発見し修正します
- プレビュー：バリエーション固有のドキュメントを生成前にレビューします
- 変換：コピー、リンク、または列挙の変換を使用してバリエーション固有のドキュメントを永続化します
- pure::variants Webクライアントとの統合：ドメイン/アプリケーションエンジニアリングをシームレスに切り替えます
- Polarion用pure::variantsコネクタを使用するにはPolarion Variantsのインストールが必要です

詳細は[コネクタのWebページ](#)を参照ください



Polarion用pure::variantsコネクタ



注目すべき改善点と 修正点





注目すべき改善点

- **ライセンス使用**の改善： p::v 5 では、デスクトップとWebベースの pure::variants コンポーネントを同時に使用する場合、1ユーザーで2つのライセンスを消費していました。これは修正され、p::v 6 では1つのライセンスだけが消費されます
- **pure::variants JavaScript** ライブラリが更新され、pure::variants JavaScript によるカスタマイズで **ECMAScript 2015 (ES6)** 言語機能が使用できるようになりました (PV-4333)
- **ドキュメンテーション機能の強化**： リモートプロジェクト、コンフィグレーションスペース、変換コンフィグレーションに説明記述を追加できるようになりました (PV-4336、PV-4351、PV-4421)
- **pure::variants ANTタスク** を拡張し、継続的インテグレーション環境でグローバルコンフィグレーションを意識した pure::variants プロジェクトでの作業が可能になりました (PV-4335)。pure::variants User's Guide で <pv.import> task の更新ドキュメントを参照ください
- **DOORS Next** 用の pure::variants 統合ウィジェットでサイト全体のデフォルトをサポートしました。管理者は Web Hub の URL を指定でき、デスクトップ Hub モードを無効にできます (PV-4292、PV-4293)。codebeamer と Polarion 用のウィジェットも同じ機能を備えています
- ローカルファイルの参照に加えて、**ps:file** タイプのファミリー要素は、**URL** 経由でファイルを参照できるようになりました (PV4409)。HTTP と HTTPS で Basic 認証をサポートしました



注目すべき修正点

- pure::variants モデルサーバーが使用する **zlib** ライブラリを更新し、**セキュリティ脆弱性 [CVE-2022-37434](#)** に対処しました (PV-4344)
- **Web Hub モード** 使用時、Web ベース統合のウィジェットでの**エラーメッセージを改善**しました (PV4295)
- **RMM 変換** に失敗する原因となる 2 つの問題点を修正しました。1 つ目は、非常に長いストリーム名を処理できないことで、2 つ目は、変換中に EWM クライアントからログアウトするとエラーが発生することです。両方の問題が修正されました (PV-4371、PV-4386)
- **リモートプロジェクト** で「類似度マトリクス」、「同一選択」、「類似バリエーション」の**分析**が使用できるようになりました (PV-4415)
- デスクトップベースのツールの pure::variants 統合の**自動補完プロポーザル**がバックグラウンドで開くことがあります (PV-4365)、修正しました



www.pure-systems.com



FUJI SETSUBI

富士設備工業(株) 電子機器事業部

<https://www.fuji-setsu.co.jp>

Copyright Notice and Disclaimer:

This presentation is copyrighted by pure-systems GmbH (and other parties if indicated). It is made available to the recipient for internal use only, any further use is excluded.

In particular, the recipient is not permitted to transfer or license the presentation to third parties, to distribute the presentation or to make the presentation publicly available without the express written consent of pure-systems GmbH.

pure-systems GmbH expressly disclaims any warranty for the correctness and completeness of the contents of the presentation.